

A病院の周産母子センターにおける災害看護の役割を考える

～地震災害を想定したシミュレーションを実施して～

2階西病棟・周産母子センター

○ 門脇 理絵 小松 延江 竹内 若夏子
大島 美智子 森本 雅子

キーワード：周産母子センター、災害看護の役割、シミュレーション

I. 研究目的

今日、最大級の規模といわれている南海地震は50年以内に80%の確立で発生すると予測されており、医療機関においては、緊急時に迅速で的確な対応の必要性を今迄以上に求められる。今回は、未熟児医療の原点を基盤とした災害時対応マニュアルを作成し、シミュレーションを行い、その前後のアンケート調査から、周産母子センター看護師の役割を明らかにする。

II. 研究方法

1. 研究対象：A病院の周産母子センター勤務の看護師8名

2. データ収集方法

第1段階：シミュレーション前のアンケート調査

第2段階：震度6弱の地震発生を想定したシミュレーションを実施。「周産母子センター 災害時対応マニュアル」作成。

第3段階：シミュレーション後のアンケート調査

3. データ分析方法：シミュレーション前後のアンケート調査の自由記載内容をKJ法で分析。シミュレーションをビデオテープに撮り看護師の行動を分析した。ビデオテープを撮ることに承諾を得た。

4. 倫理的配慮

アンケートは無記名とし、同意を得た対象に限り調査を行う。診療や看護に不利益になることはないことを説明した。

III. 結果および考察

対象者の平均看護師歴17年、回収率は100%。

アンケート結果から、看護師のとり行動は7つのカテゴリー「安否の確認」・「児の安全確保・保持」・「被害状況の把握」・「情報収集・連絡体制」・「避難」・「家族への働きかけ」・「受け入れ体制の準備」に分類できた。さらに、シミュレーション時の行動から「余震に備えた対応」が8つめのカテゴリーとして明らかになった。

1. 看護師のとり行動の8つのカテゴリー

【安否の確認】

災害時の救助力を高めるためには、まず自らが被災せず生存することであり、地震発生時には、自助が最も大切ということが認識されていた。特に災害時の医療現場では、その行動が個人やチームの力を発揮するために重要である。

【児の安全確保・保持】

シミュレーションでは、スタッフ間での連携、処置、ケアが行えており、緊急時に焦らず看護原則を守るためには更にシミュレーションを含めたトレーニングで修得していく必要がある。

【被害状況の把握】

シミュレーションを行う事により、医療機器が通常どおり使用できない困難さや、停電・医療機器の停止・転倒のイメージ等、起こりうる事態をより具体的に予測することができた。

【情報収集・連絡体制】

情報の共有と連携の大切さが重要であると認識された。特にシミュレーション後に産科病棟との連携が重要視された。

【避難】

シミュレーションを行うことで児の安全確保が最優先であることが認識され、被害状況や自分たちの役割・行動を具体的に考えることができた。避難開始は、正確な情報のもと、具体的で綿密な計画を立てることが重要である。特に周産母子センターでは、患者を避難するか否かの判断基準、避難先の確保・搬送方法を十分に検討する必要がある。

【家族への働きかけ】

母親が病棟に入院している場合は、母親に直ちに安否を報告するようになっている。それ以外の児の家族については、患者の安否情報の伝達手段を今後検討する必要がある。

【受け入れ体制の準備】

シミュレーションにより、受け入れ体制の準備に要する時間をより具体的に考えられるようになった。

【余震に備えた対応】

シミュレーション時には、次の余震に備え、児を部屋の中央に集め、倒れた器材やガラスの破片を部屋の隅によせる行動がとれていた。

2. シミュレーションの効果

- 1) 周産母子センター内の予測される被害状況の比較では、シミュレーション後に「児」に対する被害予測が高くなった。また、児への被害がより具体的にイメージできるようになった。
- 2) 防災に関する認識の変化では、シミュレーション後に、コットベッド・保育器の配置、児の転落防止に対しての認識が高まった。これは、シミュレーションを通して日常の業務に防災の意識が高まり、日頃からの備えが必要であると認識した結果あると考える。

VI. おわりに

看護師が取る行動の8つのカテゴリーは周産母子センターにおける災害時の基本的な役割である。そして、これらを基にマニュアルを作成し周知することで日常の業務で防災に備えた姿勢を持ち、更にトレーニングを重ねることで臨機応変な看護力を作り上げていく事が災害看護の役割である。